

# 連携室たより

第 57 号

平成 25 年 6 月 1 日  
出雲市姫原 4 丁目 1 番地 1  
島根県立中央病院 地域医療連携室  
医療連携・医療相談科

TEL 0853-30-6500

FAX 0853-30-6508



## 頭痛専門外来の紹介

神経内科医長 豊田 元哉



日頃、皆様には大変お世話になっております。

当院では、H24 年 12 月より頭痛専門外来を開設しております。毎週木曜日午後 13 時から行っており、頭痛専門医が対応致します。

難治性頭痛や診断困難な頭痛など開業医の皆様がお困りの患者さまや、市販薬が効かなくて困っておられる一般の患者さまなど幅広く受け入れております。頭痛専門医は島根県内では 3 人目で、出雲市内では初めてとなります。

さて、頭痛と一口に言っても、現在、国際頭痛分類第 2 版にて、100 種類以上に分類され、病気として取り扱われております。それぞれで治療方針が異なり、きめ細かい生活指導を要する場合があります。



頭痛診療で、まず大切なのは片頭痛のような一次性頭痛なのか、くも膜下出血のような二次性頭痛なのか鑑別することです。この点は頭痛専門医でなくても、脳疾患を専門にしている神経内科、脳神経外科の医者なら多くは可能です。中には鑑別が難しく、耳鼻科領域や眼科領域、精神科領域にまたがる場合があります。次に一次性頭痛ならばどのタイプの頭痛なのか鑑別していく必要があります。時には複数の頭痛が共存している場合もあり、その判断に困ることもあります。

治療は病気の種類によって異なります。代表的なものは片頭痛で使用するトリプタン製剤がありますが、その他、抗てんかん薬、降圧薬や漢方薬などを使用したり、重篤なものではステロイド剤を併用する場合があります。薬物治療だけではうまくいかない場合もあり、環境因子、睡眠、食べ物などきめ細かい指導を要する場合があります。同じ片頭痛でも人によって使用する薬剤は異なり、また同じ人でも時期により使用する薬を変化させていきます。まさにオーダーメイドの治療といえましょう。

私はかつて、NHK の番組で、片頭痛が原因で、不登校になった児童や高校を退学せざるを得ない方がいることを知り、ショックを受けたことがあります。その時から、頭痛専門医をめざすようになり、今日に至っております。私自身まだまだ未熟ですが、少しでも患者さまの力になればと考えております。

## 摂食・嚥下チーム活動紹介

～嚥下食標準化から食の地域連携へ～

摂食・嚥下チーム リーダー

リハビリテーション科部長 永田 智子



食べることは、人がこの世に生まれ母に抱かれて営む初めての ADL で、人生終末期には最後に残る日常生活動作(以下、ADL)です。平成 24 年、日本人の死亡原因の第三位は肺炎になりました。肺炎による死亡は、高齢者人口急増を背景に、癌・心疾患・脳卒中、三大疾患のうち脳卒中を超え、今後もその増加が見込まれます。2012 年、高齢者向け食品の市場規模は 100 億円超の急成長と報道されています。

私たち摂食・嚥下(えんげ)チームは、急性期治療中の患者さんが安全で最適な摂食・嚥下機能を発揮されるよう、多職種で横断的な活動を行っています。脳卒中急性期には、安全な経口摂取開始と段階的な食事変更により急性期肺炎を予防すること、高齢の患者さんが転院・退院などで当院の出口をくぐられる際には、残存する嚥下機能に最適な食事の形態・介助、口腔ケアの方法をご家族や関連職種の方へお伝えできる院内体制づくりも使命の一つです。急性期治療中の肺炎予防と嚥下機能の維持は、寝たきり期間を短縮し、次の治療段階や生活の場へつなぐ隠れた基盤ともいえます。

栄養管理の問題と嚥下障害は、急性期病院からの退院・転院に際し大きなハードルとなります。食事と栄養管理には切れ目のない連携が求められ、連携には共通の言語と尺度(ものさし)が必要です。そこで、2013 年、チーム活動の一環として、当院の嚥下食を(社)日本摂食・嚥下リハビリテーション学会策定の嚥下調整食学会基準案 2012 に基づく 5 段階(※)へ改訂しました。(※中高年の脳卒中や加齢等による中途嚥下障害を主な対象とする：[http://www.jsdr.or.jp/news/news\\_20111012.html](http://www.jsdr.or.jp/news/news_20111012.html)) いわば、国内共通の嚥下食の言語と尺度が、ここ出雲の地に整いました。既にその概要は地域連携室、栄養管理科など他部門から個別にご案内を始めています。今後、当地域におけるこの共通尺度の周知はチームの課題の一つです。

2009 年、本チーム活動は専門職数名の声掛けから派生し、活動を重ねた翌年院内承認を得て、2012 年には電子カルテに独自の診療支援ツールを開発、チーム内の情報共有は盤石となりました。2013 年、摂食・嚥下障害看護認定看護師が院内で専従となります。これにより、院内活動の充実はもとより、地域の諸機関の皆様へむけた摂食・嚥下障害にかかわる研修依頼・要望にお応えできる体制が整います。

本稿をお借りして、当チームへの院内支援に感謝するとともに、  
今後は地域連携を視野におく情報発信と活動展開を目指します。



●チーム構成(2013年5月現在)

医師 1名 (リハビリテーション科専門医)  
 言語聴覚士 3名  
 看護師 3名 (認定看護師 1名)  
 歯科衛生士 1名  
 管理栄養士 1名  
 医療秘書 1名  
 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 2名、  
 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士 2名)



摂食・嚥下チームカンファレンス



嚥下内視鏡検査

## 新・嚥下調整食(5段階)



## 地域医療連携室新人紹介



地域医療連携室  
看護副師長 妹尾 千穂



4月に地域医療連携室に配属になりました、妹尾千穂です。これまで、中央診療部門、救命部門、一般病棟を経験してきました。看護師として10数年、様々な患者さんと関わってきた中で、退院調整・支援については大変興味を持った分野で、いつかは学びをより深めたいと思っていました。地域医療連携室に来て2か月が経ちますが初めてのことばかりで、院内外の方々に多々ご迷惑をおかけしていることと思います。今後もひとつひとつの関わりを大切にして、患者さん、家族の方のために円滑に地域との連携ができるよう、日々精進していきたいと思っておりますので、ご指導よろしく願いいたします。



地域医療連携室  
社会福祉士 岡 美佑紀



4月よりお世話になっております。岡と申します。昨年度まで慢性期病院で相談員をしていましたが、急性期病院での業務は初めてなので一からという気持ちで取り組んでいます。これまでとは異なることも多く戸惑うことも多々ありますが、周りのスタッフに支えられ少しずつ慣れてきたところです。新しい環境の中で余裕のない毎日ではありますが、これまでの経験を活かしながら患者さんや家族の方に寄り添った支援を心掛けていきたいと思っています。

ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、皆様どうぞよろしくお願い致します。

## 地域医療連携の状況

日頃は患者様のご紹介をいただきありがとうございます。  
H25年2月～4月の紹介件数、ネット・FAX利用状況をお知らせします。

紹介件数、ネット・FAX利用状況

	紹介件数	ネット・FAX利用状況（内数）		
		まめネット	FAX 予約	
			診療	検査
平成 25 年 2 月	1,262	137	263	73
3 月	1,403	172	245	86
4 月	1,269	144	286	72